

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						2.9
Q1 室内環境			0.30			3.0
1 音環境		3.8	0.15	-	-	3.8
1.1 騒音		3.0	0.40	-	-	
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	-	-	
2 設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		4.6	0.40	-	-	
1.2.1 開口部遮音性能	遮音性能:T-2	5.0	0.60	-	-	
2 界壁遮音性能	D値:40	4.0	0.40	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	
1.3 吸音	2F事務室の天井に岩綿吸音板、床にタイルカーペットを使用。	4.0	0.20	-	-	
2 温熱環境		2.0	0.35	-	-	2.0
2.1 室温制御		3.0	0.50	-	-	
1 室温設定		3.0	0.38	-	-	
2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		3.0	0.25	-	-	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式		1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境		3.5	0.25	-	-	3.5
3.1 昼光利用		2.2	0.30	-	-	
1 昼光率		1.0	0.60	-	-	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備	ライトシェルフを計画している。	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御	庇とブラインドの2種類を組み合わせて制御している。	4.0	1.00	-	-	
3.3 照度		3.0	0.15	-	-	
1 照度		3.0	1.00	-	-	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御	1作業単位で制御可能、かつ、端末・リモコンなどで調整可能。	5.0	0.25	-	-	
4 空気環境		3.7	0.25	-	-	3.7
4.1 発生源対策		4.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質	床・壁・天井・天井裏の全てに告示対象外の建材及びF を	4.0	1.00	-	-	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 ダニ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		2.3	0.30	-	-	
1 換気量		3.0	0.33	-	-	
2 自然換気性能		1.0	0.33	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	-	-	
4 給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		5.0	0.20	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御	喫煙室を設置。喫煙室内に換気扇を設置。	5.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.0
1 機能性		2.7	0.40	-	-	2.7
1.1 機能性・使いやすさ		2.3	0.60	-	-	
1 広さ・収納性		1.0	0.33	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	-	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性		3.3	0.40	-	-	
1 広さ感・景観	天井高2.7m以上で、かつ執務者が屋外の情報を得られる。	4.0	0.33	-	-	
2 リフレッシュスペース	喫煙室やリフレッシュルームがあり、自動販売機が設置されている	5.0	0.33	-	-	
3 内装計画		1.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-	3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-	
1 耐震性		3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.8	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	空調:銅管、給水:塩ビライニング鋼管、排水:硬質塩ビ管	5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		2.0	0.23	-	-	
2.3 適切な更新		-	-	-	-	
2.4 信頼性		3.8	0.19	-	-	

	1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
	2	給排水・衛生設備	節水型器具を使用。受水層は2基層に分離している。	4.0	0.20	-	-	
	3	電気設備	非常用発電設備がある。キュービクルを一階に設けている。	4.0	0.20	-	-	
	4	機械・配管支持方法	機械・配管支持方法の耐震クラスはAである。	4.0	0.20	-	-	
	5	通信・情報設備	通信手段の多様化を見込んでいる。地下への設置を避けている。	4.0	0.20	-	-	
<b>3</b>		<b>対応性・更新性</b>		<b>3.4</b>	<b>0.29</b>	-	-	<b>3.4</b>
	<b>3.1</b>	<b>空間のゆとり</b>		<b>4.4</b>	<b>0.31</b>	-	-	
	1	階高のゆとり	階高3.775mで3.7m以上となっている。	4.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率:0.05	5.0	0.40	-	-	
	<b>3.2</b>	<b>荷重のゆとり</b>		<b>3.0</b>	<b>0.31</b>	-	-	
	<b>3.3</b>	<b>設備の更新性</b>		<b>3.0</b>	<b>0.38</b>	-	-	
	1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
	3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
	5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
	6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
<b>Q3</b>		<b>室外環境(敷地内)</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.8</b>
	1	生物環境の保全と創出		3.0	0.30	-	-	3.0
	2	まちなみ・景観への配慮		3.0	0.40	-	-	3.0
	3	地域性・アメニティへの配慮		2.5	0.30	-	-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR</b>		<b>建築物の環境負荷低減性</b>		-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1</b>		<b>エネルギー</b>		-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.8</b>
	1	建物の熱負荷抑制		-	-	-	-	-
	2	自然エネルギー利用		3.0	0.29	-	-	3.0
	2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
	2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
	3	設備システムの高効率化	高効率な照明器具を採用している。 ERR=54.9	5.0	0.43	-	-	5.0
	4	効率的運用		3.0	0.29	-	-	3.0
	4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
<b>LR2</b>		<b>資源・マテリアル</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
	1	水資源保護		3.4	0.15	-	-	3.4
	1.1	節水	水栓器具の節水コマの他、省水型機器などを用いている。	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
	2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
	2	非再生性資源の使用量削減		3.0	0.63	-	-	3.0
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.07	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
	2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	乾式壁で分別が容易。OAフロア等再利用できるユニット部材を用	5.0	0.24	-	-	
	3	汚染物質含有材料の使用回避		3.2	0.22	-	-	3.2
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.3	0.68	-	-	
	1	消火剤	ハロン消火剤を一切使用していない。屋内消火栓と泡消火を使	4.0	0.33	-	-	
	2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
	3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3</b>		<b>敷地外環境</b>		-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.7</b>
	1	地球温暖化への配慮	参照値の80%。	4.6	0.33	-	-	4.6
	2	地域環境への配慮		3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	電気給湯器を採用し、燃焼機器を使用していない。	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	十分な駐輪スペースを確保。駐車場導入路は6m以上あり混雑配	5.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
	3	周辺環境への配慮		3.2	0.33	-	-	3.2
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
	1	騒音		3.0	1.00	-	-	
	2	振動		-	-	-	-	
	3	悪臭		-	-	-	-	
	3.2	風害、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
	1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
	2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインのチェックリストの項目を過半満たしている	5.0	0.70	-	-	
	2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	